

複数言語で対話

時間へのんびり

長崎大多文化社会学部の学生に留学先で学んだことを報告してもらう「環球通信」。第6回は発展著しいマレーシアから、国際色豊かな大学や学生の生活にまつわるリポートです。



私が通う私立大学では、授業はすべて英語。国外からの留学生も多く、クラス内だけでもインドネシアに韓国、カザフスタンにセルビアと、とても国際色豊かだ。

公用語のマレー語と準公用語の英語のほか、日常生活では中国語やタミル語も頻繁に使われる。現地の友人は、英語だけで

今年3月から留学しているマレーシアは、主に三つの民族が共生する多民族国家。先住民を含むマレー系を中心に中国系、インド系の人々らがともに暮らす。

この国では、国民のほとんどが二つ以上の言語を話すことができる。セランゴール州にある



友人たちとイスラム教の断食明け。前川中良三が真昼

授業中食事 カジュアルさ魅力

@マレーシア・テイラーズ大

なくマレー語や中国語も教えてくれる。多くの言語を学べることは、マレーシア留学の魅力の一つといえる。

地元の学生に共通しているのが、時間にルーズなところだ。

授業が始まる時間になっても学生はほとんどいないし、先生が遅れてくることもしばしば。授業の5分前に教室に入っても誰もおらず、「教室を間違えたのでは……」と思ったこともあった。

授業中もリラックスした雰囲気、食事をとる学生もよく目にする。食べているのはお弁当ではなく、売店やカフェで買ったワッフルやサラダ。このマレーシア人のカジュアルさが、私は大好きだ。でも、こののんびりした生活に慣れると、日本に帰ってからのことを考えて少し恐ろしくなる。

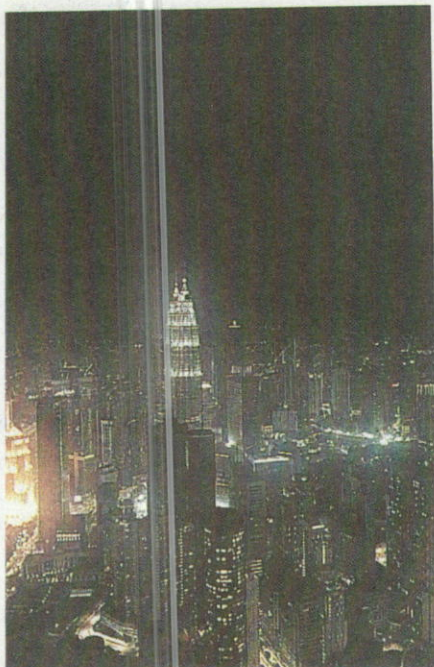
年間を通して暑いマレーシア

では、涼しい場所がみんな大好き。よく行く遊び場所の一つが、ショッピングモールの映画館。同じ友人に3日連続で連れ出されたこともあった。

館内はいつもほぼ満員。事前に入らないこともある。日本と違うのは、上映中にみな感情をよこすことだ。面白いシーンがあれば声を出したり、手をたたいたりして笑う。初めは抵抗があったが、今では私も一緒に声を出して笑うようになった。

マレーシアは急激な経済発展を遂げ、首都クアラルンプールは24時間華やかな街だ。その陰で、所得格差など多民族国家ならではの問題もある。グローバル社会の縮図とも言えそうなの国を、しっかり自分の目で見て、感じたことを国際政治の研究に役立てたい。

(3年・小川淑子)



クアラルンプールタワーの展望台から見た夜景=6月